

あおり藍苗植えに汗



青い海と
森の
音楽祭

10/31-11/8

10月31日に開幕する「青い海と森の音楽祭」公式グッズの藍染め製品の原料となる「あおり藍」の苗植えが19日、青森市飛鳥地区で始まった。

苗植えには、同市のあおり藍産業と農事組合法人羽白開発のメンバーに加え、東奥日報社の女性倶楽部「女子〇（ジョシマル）」の会員ら計15人が参加。4月中旬から近くでハウス栽培し、この日に機械で植え

あおり藍の苗の仕上げ植
えに精を出すジョシマル会
員ら



た苗が状態良く生育するよう、会員らは腰をかがめながら、傾いた苗を天に向ける仕上げ植えに汗を流した。

今年は昨年の80%の栽培面積より広い1畝の畑に4日ほどかけ苗植えを行い、7月下旬にも収穫する。知人と参加した黒石市の川浪嘉子さんは「昨年は藍染めと収穫に参加し、きょうは収穫するまでの苦勞を知りました」と話し、あおり藍産業の中村崇専務は「タオルやシャツなどの藍染めグッズで音楽祭を盛り上げ、舞台が華やかになるよう、良質な葉を作りたい」と語った。（葛西憲悟）